

令和4年12月19日  
工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野祐司  
(国立研究開発法人科学技術振興機構 主任専門員)

1

### 令和4年度 第1回ワーキンググループ会議について

開催日時：令和4年11月11日（金）午後2時30分～午後4時00分

開催場所：専門学校 国際理工カレッジ

報 告：コンソーシアム千葉として新たに推薦枠を開拓するには

出席者：日本製鉄株式会社、株式会社昭和電業社、宝醤油株式会社、株式会社オチアイ、内外マリアブル株式会社、千葉工業大学、日本大学理工学部、ものづくり大学、専門学校国際理工カレッジ、船橋情報ビジネス学校、専門学校千葉県自動車大学校、教育庁教育政策課高校改革推進室、京葉工業高校、千葉工業高校、市川工業高校、清水高校、東総工業高校、茂原樟陽高校、天羽高校  
(以上、会員19名)

オブザーバーとして国立研究開発法人科学技術振興機構から2名

#### <コンソーシアム小野会長挨拶>

私ども工業高校を支援する立場から見ますと、工業科及び普通系専門学科コースの充実、職業系専門学科コースの充実、県立高校における地域活性化での貢献、地域人材の活用を推進し今後も、ものづくりの魅力を積極的に発信するとともに工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の取り組みを一層充実させ、工業系分野における担い手のさらなる育成が求められる。

#### <会場提供校竹井学校長挨拶>

部活動とは私たち教育の一環で、中学、高校では非常に重要です。もちろん知識、技術の習得も大事ですが、やはり社会に出ると人間性のところが重要になるため、いろいろなクラブ活動を通じて、人間性を磨くことがあるといいなと思いました。

#### <会議の概要>

工業系人材育成コンソーシアム千葉として、生徒の工業的頑張りを評価していただき、企業・大学・専門学校で新たに工業高校生の推薦枠を設けていただくことを考えましたので、会員の方々と意見交換をさせていただきました。

工業高校生の頑張りは、総合技術コンクール（知事賞など）の部門では、溶接、機械設計製図、電気工事、電子回路工作、化学分析、測量、建築設計図、計算技術、ロボットコンテスト、ライトレースカーの10部門やその他の表彰や資格取得などを考えています。



## ～コンソーシアム会員からの意見～

★新たな枠組みで推薦という考え方というのは悪くはない考え方だと思うが、一方で専門学校全体が定員割れを当たり前とするのを感覚としてある。要するに、大学だとある一定数の受験、留学希望者がいて、どうしても学力試験があり泣く泣く落ちてしまうことがあるので、ある種特殊な推薦枠があればそれに惹かれて頑張ってみようという考え方があるかもしれないが、全体的に専門学校の業界を見ると定員割れしている。そうなると推薦があろうがなかろうが、入れてしまうと、どうしてもその魅力は、うまみにかけてしまい、推薦枠を取る意欲がなかなか出なくて活用されず、この推薦枠が廃れていくという流れに直面してしまうのではないかと考える。なので、企業さんへの内定や、入りたい方への優先的なパスといった足元を固めるためには良いのではないかと感じる。

★推薦枠を設置し、推薦をされるというのは非常に良いことだと思うが、企業として就職する場合にはやはり学校精査の制度がある。それとは別枠でお考えになるのか、それともその中の1つなのか。そうすると学校推薦とこの子に対してはコンソーシアムの枠がつくよってという話になるのか、ちょっとその辺は疑問があり、どのように考えているのか。私としては枠を超えての早期に取れるということになれば企業としては良いことなのかもしれないが、変に競争になってしまうということもあるのだろうと思います。

★一般の生徒と推薦の生徒が同じ時期に受験すると協定の関係もあるので、あまりメリットが無いと思う。例えばそのような生徒を先に試験させ、先に内定を出すことが可能であれば企業としては嬉しいと思うが、一般の生徒と同じ土俵で争っていただくとなんら変わりがないと感じる。

★スポーツ推薦に変わるような枠は、すごく面白いと思うのでこれができるのであれば良いかなと思う。しかし、新たに大学でコンソーシアム入試を設立するのか、それともAO推薦の中でこれを受け入れるかによって、大学の対応が少し変わってくる。本学としてはこういった自分たちの受賞歴などをアピールする学校推薦型の専門高校入試というのがあり、そこは平均値の縛りを数学、英語、理科、専門科目で3.5以上ある子が受けられるという形にしている。

また、総合型選抜の中でも自己PRのようなものを持参して発表もできるので、受賞歴のある生徒は存分にアピールしていただければと考えている。

★一生懸命やれる子というのは、例え勉強ができなくても仕事ができる子は多い。むしろ勉強はできるけど仕事ができない人は結構いる。個人的にはそういう生徒が推薦で出てきてくれるのは非常にありがたいなと感じる。内々定のような形になり、早期に就職先が決まることで「適当にやろう」という考えになる生徒や、推薦を受けることでプレッシャーを感じる生徒がいるかもしれない。新しい取り組みなので検討する必要がある。

## <まとめ>

この会議でのとりまとめは難しいので、この件については今後もコンソーシアムとして推薦枠を開拓する方向で議論を継続することになりました。



### 【工業基礎コース・ものづくりコース設置までの経緯】

千葉県教育委員会は、平成24年3月に県立学校改革推進プランを策定し、向こう10年間の県立学校改革に関する基本的な考えを示し、平成30年4月には県立学校改革推進プラン第4次実施プログラムでは、天羽高等学校に「工業基礎コース」、姉崎高等学校に「ものづくりコース」の設置が示されました。

### 天羽高等学校「工業基礎コース」見学について

去る、令和4年10月26日（水）にコンソーシアム事務局の小野会長ほかの関係者で、天羽高等学校工業コースの実習授業を見学に行きました。内容は次の通りです。

#### ＜はじめに＞

天羽高等学校は、明治35年に開校し農学校・農業高校を経て、昭和25年に千葉県立天羽高等学校となり、今年で創立120年目を迎えた普通科高校です。各学年3クラス、全校で270名定員の学校規模で、2年生から「文理コース」「実務コース」「生活コース」「工業基礎コース」の4つのコースに分かれます。

#### ＜工業基礎コースの教員＞

教諭1名・実習助手1名

#### ＜工業基礎コースの生徒＞

コース定員15名（現在2年生12名、3年生14名）

#### ＜カリキュラム＞

2年生で工業技術基礎・工業数理基礎

3年生で課題研究・生産システム技術・製図

#### ＜今後について＞

今年度末に工業基礎コース第1期生14名が卒業する予定です。現在、それぞれの進路に向けて日々努力しています。14名全員の進路決定を目指し、学年や進路の職員で指導しているところです。



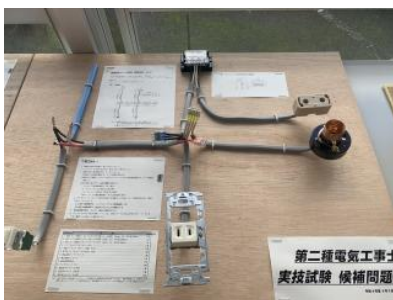
授業「工業技術基礎」の様子



電気工事の実習



卓上フライス盤



生徒製作の電気工事士の問題例



実習室入口のオブジェ



生徒製作の消毒スタンド

## 姉崎高等学校「ものづくりコース」見学について

去る、令和4年11月21日（月）にコンソーシアム事務局の小野会長ほかの関係者で、姉崎高等学校ものづくりコースの実習授業を見学に行きました。内容は次の通りです。

### <はじめに>

姉崎高等学校は、令和2年度から「ものづくりコース」がスタートしました。姉崎高等学校は、京葉工業地帯を控える立地であることから、工業に興味をもってもらい、地元工業系企業への就職を一層進めようとの目標をもって設置されました。

普通科の中のコースとして設置されましたので、教育課程は普通科の教科・科目を基本としますが、工業系科目やものづくり実習により、工業への興味関心を高めてもらおうと考えています。工業科の職員が配置され、実習室で電気、電子を主として工業の基礎を学ぶことができます。実習室は、工業高校のような設備で加工機械や溶接の機器が整い、ものづくりの現場を体験することができます。

### <ものづくりコースの教員>

教諭1名・実習助手1名

### <ものづくりコースの生徒>

コース定員20名（現在2年生13名、3年生8名）

### <カリキュラム>

2年生で工業技礎・生産システム技術

本校工業免許所有教員の他、地元工業系企業から講師を派遣してもらっての授業を実施

3年生では2年生で選択した「ものづくりコース」を継続履修

加えて、課題研究・生産システム技術



文化祭で「ものづくり教室」を実施



電子工作の実習1



電子工作の実習2



課題研究で製作した溶接機台車



室外での作業



溶接の実習



溶接スペース

### 今後の予定

#### ★職員研修会（工業科職員対象）

令和4年12月27日（火）日本大学工学部船橋キャンパスにて実施します。

#### ★第2回運営委員会・総会（コンソーシアム千葉会員対象）

令和5年2月14日（火）現代産業科学館にて実施します。案内は後日発信します。

#### ★第9回生徒研究発表会

令和5年2月6日（月）～17日（金）の期間にホームページ開催をします。

工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局  
事務局長（千葉工業高校教頭）川口 憲治郎  
TEL:043-264-6251 FAX:043-268-5524